

第 69 回 歴史探訪の会 「淀城跡・石清水八幡宮を巡る」

実施日：令和元年 5 月 15 日
場 所：京都市伏見区、八幡市
案内者：内海春樹

新緑があざやかな五月晴れに恵まれた当日、京阪電車・淀駅に 19 名が集合。まず、過日歴史探訪会の創設者で代表の“蛇草實太郎さん”がご逝去された事を報告、全員でご冥福をお祈りしました。

今日は“淀城跡”と平安京の門戸を鎮守する“石清水八幡宮”を訪れます。淀駅の前には、昔、淀川から城内部に水を供給した大きな“水車”が復元されている。駅から約 10 分歩くと城跡に到着、お堀には黄色い菖蒲の花が咲いている。

1. 淀城

淀城と呼ばれる城は 2 つあった。

今日見学する淀城は、徳川幕府による京都・大坂支配の一環として築かれた近世城郭である。

淀君が住んだ城は約 500M 北にあった戦国時代の“淀古城”として区分され 別の城である。淀古城は応仁の乱後に築かれ、転々と城主が変わった後、天正 17 年(1589 年)に秀吉が愛妾茶々(淀君)のために改築して入部させた城であるが文禄 4 年(1595 年)に廃城となった。

現存する淀城は徳川幕府が元和 9 年(1623 年)に京都護衛の要衝として建設された。当初の城主は松平定綱で石高は 3 万 5 千石、その後城主は変遷し江戸後期には、稲葉氏が任じられた。幕末の稲葉正邦は徳川慶喜の老中として活躍したが、鳥羽伏見の戦いでは官軍に属して幕府軍の入城を拒んだ。建築当初の天守は宝暦 6 年(1756 年)に落雷で焼失、その後二条城の天守を移築した。なお、この天守は元々豊臣秀長が築いた大和郡山城の天守を徳川幕府により二条城に移されたもので、更にその後淀城に移された。



淀城に水供給する為の水車の復元模型



当時水車があったとされる場所で説明を聞く

天守台は打込み接ぎの美しい石垣。文献によると、当時この上には二条城の旧天守が移築されたが、天守台に比べ旧天守が小ぶりだったため、天守台の四隅に小さな櫓を建てそれらを多間櫓で繋ぎ、その中央に天守を載せるという独特の構造になっていたという。又、城内で使用する水を川からくみ上げるため直径 16M の“水車”が西・北堀の 2 カ所に用いられた。



天守台と礎石

☆大阪の淀屋橋を最初に作った豪商“淀屋”の話

☆この近辺の町名で珍しい名前がある。

『一口町』これは“いもあらい”と呼ぶ。

場内に 與杼(よど)神社と稲葉神社が祀られており参拝。 この後、淀駅に戻り八幡市駅まで電車に乗る。

2. 二宮忠八と飛行神社

米国のライト兄弟が 1903 年に発動機付き有人飛行機の離陸に成功する以前(1891 年)に我が国の二宮忠八が模型飛行機の飛行実験を成功させていた。当時の軍に提言したが却下され、自力で数々の模型飛行機の飛場を成功させたが、限界があり有人化に至らなかった。

ライト兄弟が成功した有人飛行機の原理に近かった事で、後に軍の幹部が忠八に謝罪したそうである。

この『飛行神社』はその二宮忠八が航空事故犠牲者の慰霊と航空の安全を祈願して創建、自ら宮司を務めた。神社のまえに、ジェットエンジンや海中から引き揚げられたゼロ戦の前部が展示され興味を引かされた。



飛行神社



大阪湾から引き揚げられたゼロ戦のエンジン部分

次に石清水八幡宮に向かう。

一ノ鳥居の“扁額”の八幡宮の文字は、平安時代政治の中枢にいた藤原行成の書。 なお「八」の字は八幡さんのお使いである“双鳩”を模してある。



一ノ鳥居 扁額の八幡宮の「八」の字は向い合う2羽の鳩になっています

3. 頓宮(とんぐう)と高良神社

男山山上の上院(じょういん)に対して下院(げいん)と呼ばれる頓宮は、石清水八幡宮の御旅所である。9月15日に行われる石清水祭りには八幡大神など三柱の神霊を乗せた御鳳輦(ごほうれん)が渡御される。頓宮の南門外にある高良神社は八幡神の伴神である“高良玉垂命(こうらたますだれのみこと)がまつられている。山上の本社が国家鎮守の社であるのに対し、八幡町の氏神として庶民の信仰を集めてきた。



頓宮



高良神社

ここから本殿までは、階段や急坂となるので一部の人はケーブルカーを利用。徒歩組みは結構きつい坂や階段をお互い励ましあいながらゆっくり登る。



途中、「松花堂弁当」発祥の地と言われる僧侶“昭乗”が構えた“松花堂”と号する草庵を訪ねる。昭乗は絵具入れや煙草盆に使うのに、田字形の仕切りを付けた塗箱を小物入れとして考え重宝した。

後に、吉兆創業者の湯木貞一が昭和 8 年に松花堂の茶会に訪れ、茶室の隅に置いてあったその塗箱にヒントを得「松花堂弁当」を考案した。

展望台でケーブル組と合流、天王山、愛宕山、比叡山などの山に囲まれた美しい京都の街並みが見られる。ここで昼食とする。



男山山上の展望台から京都方面をのぞむ

5. 石清水八幡宮

日本四大八幡宮の一つである。(他は 宇佐・宮崎・鶴岡)

平安前期の貞観 2 年(859 年)に大安寺の僧である行教(ぎょうきょう)が豊後の宇佐神宮に参詣した際、八幡神の神託を受けて神霊を平安京南西の男山に奉安し、翌年に清和天皇の勅命を受けて社殿6宇を建立、3柱を勧請したのが始まり、社名は男山の山腹に湧く霊泉に因む。

平安時代は朝廷の崇敬を受けて伊勢の皇大神宮に次ぐ宗廟と仰がれ天皇や上皇の行幸は 250 回を超えた。

源義家が社殿で元服して八幡太郎義家を名乗った事から、源氏の守護として鎌倉時代も隆盛を極め、室町・江戸時代にも幕府や武家たちの庇護に支えられ地位を保った。

横長の本殿には中央に八幡大神(譽田別尊)、西に宗像三女神、東に息長帯比賣命(神功皇后)を祀り、本殿から軒を連ねた外殿・幣殿・舞殿は、楼門と東西門のつく回廊で囲まれている。(いずれも徳川家光の建立)



石清水八幡宮本殿

参道から撮影した写真ですが本殿が少し向かって左方向に角度がずれています、なぜでしょうか？

<見どころ>

- ① 南総門からの参道の向きが、社殿(真南)と少しずれているのは お参りの帰りに神様にお尻を向けないよにとの配慮か？
- ② 京の都の鬼門は比叡山延暦寺、に対し石清水八幡宮は裏鬼門に当たる。鬼門封じのため、社殿東北の石垣を切り取った造りになっている。
- ③ 信長塀は、織田信長公寄進、瓦と土を幾重にも重ねる事により 銃撃や耐火性、耐久力に優れていた。

④ お祓い所は正式参拝の際、ここで神職からお清めを受ける。横に生える“カヤの樹”は樹齢 700 年以上、高さ 20 メートル。



鬼門封じ



信長塀



お祓い所(写真右手)とその左横にある“カヤの樹“

6. エジソン記念碑

発明家のエジソンが白熱電球を開発する際、フィラメントの素材として6千種の材料を試みたが満足出来るものが無かった。その内日本の“うちわ”の竹を試して思わぬ成果を得た。エジソンに協力していた探検家のムーアが探しあてたのが“男山”の“真竹”だった。

「発明は1%の靈感と99%の努力からなる」 エジソン



参拝を終え今度は表参道を下り、途中美しい反り橋「安居橋」を経由し、予定通り午後2時に八幡市駅で解散しました。



石清水八幡宮本殿前にて

写真は岸場さんが撮影されたものを使用しました。